

## インド洋における国際的な津波警報体制の運用開始について

平成16年12月26日のインド洋大津波の後、ユネスコ（UNESCO）政府間海洋学委員会（IOC: Intergovernmental Oceanographic Commission）の下部組織として、インド洋津波警戒・減災システムのための政府間調整グループ（ICG/IOTWS: Intergovernmental Coordination Group for the Indian Ocean Tsunami Warning and Mitigation System）が設立され、インド洋における津波警報体制構築の取り組みが進められてきました。気象庁は、インドネシア政府の津波警報システム構築への技術支援の他、各種研修への講師派遣等を通じ、同体制の構築に積極的な貢献を行ってきました。また、システムが稼動するまでの間の支援措置として、気象庁及び米国の太平洋津波警報センター（PTWC: Pacific Tsunami Warning Center）は、インド洋沿岸各国への暫定的な情報提供を実施してきました。

このたび、10月12日をもって、インド洋における津波警報体制が正式に運用を開始、オーストラリア気象局（BoM: Bureau of Meteorology）、インド国立海洋情報センター（INCOIS: Indian National Center for Ocean Information Services）、インドネシア気象・気候・地球物理庁（BMKG: Badan Meteorologi, Klimatologi, dan Geofisika）の3機関が情報発表を行うことになりました。気象庁及びPTWCも情報提供を継続しますが、ICG/IOTWS次回総会（2012年12月～2013年3月の間に開催予定）において新体制が円滑に運用されていることが確認された後、同グループの要請に基づき、情報提供を終了する予定です。

なお、津波警報体制の正式運用に先立ち、同12日、ICG/IOTWSによるインド洋津波訓練（IOWAVE 11）が実施され、情報伝達の最終確認とインド洋各国の国内訓練が実施されます。気象庁もPTWCとともに訓練情報を発信し、この訓練に協力します。本訓練については、ユネスコからも下記URLにて報道発表が行われています。

[http://www.unesco.org/new/en/media-services/single-view/news/full\\_scale\\_test\\_of\\_indian\\_ocean\\_tsunami\\_warning\\_system\\_to\\_take\\_place\\_on\\_12\\_october/](http://www.unesco.org/new/en/media-services/single-view/news/full_scale_test_of_indian_ocean_tsunami_warning_system_to_take_place_on_12_october/)